

作成日 2020/11/01

改訂日 2024/06/19

安全データシート (SDS)

1. 化学品等及び会社情報

| | |
|--------------|--------------------|
| 化学品の名称 (日本語) | 白馬 ドレッシングオイル |
| 製品コード | 103120 |
| 供給者の会社名 | 株式会社万立 |
| 住所 | 大阪府柏原市片山町 13-59 |
| 電話番号 | 072-977-0898 |
| 電子メールアドレス | info@mannryu.com |
| ファックス番号 | 072-977-0899 |
| 緊急連絡電話番号 | 090-9984-1577 |
| 推奨用途 | 床用合成樹脂塗料塗装木床の手入れ油剤 |
| 使用上の制限 | 推奨用途以外への使用は禁止する |
| 国内製造事業者等の情報 | 同上 |

2. 危険有害性の要

特有の危険有害性 この商品は、記載の法令に該当しますので、該当する法令の内容を確認し取扱ってください。危険物第4類 第3石油類(消防法 危険物)。

GHS 分類

| | | |
|----------|-----------|------------------|
| 物理化学的危険性 | 爆発物 | 分類できない |
| | 可燃性ガス | 区分に該当しない (分類対象外) |
| | エアゾール | 区分に該当しない (分類対象外) |
| | 酸化性ガス | 区分に該当しない (分類対象外) |
| | 高圧ガス | 区分に該当しない (分類対象外) |
| | 引火性液体 | 区分 4 |
| | 可燃性固体 | 区分に該当しない (分類対象外) |
| | 自己反応性化学品 | 分類できない |
| | 自然発火性液体 | 分類できない |
| | 自然発火性固体 | 区分に該当しない (分類対象外) |
| | 自己発熱性化学品 | 分類できない |
| | 水反応可燃性化学品 | 分類できない |
| | 酸化性液体 | 分類できない |

| | | |
|-----------|------------------|-----------------|
| 健康に対する有害性 | 酸化性固体 | 区分に該当しない（分類対象外） |
| | 有機過酸化物 | 分類できない |
| | 金属腐食性物質 | 分類できない |
| | 鈍性化爆発物 | 分類できない |
| | 急性毒性（経口） | 区分に該当しない |
| | 急性毒性（経皮） | 区分に該当しない |
| | 急性毒性（吸入：気体） | 区分に該当しない（分類対象外） |
| | 急性毒性（吸入：蒸気） | 分類できない |
| | 急性毒性（吸入：粉じん、ミスト） | 区分に該当しない |
| | 皮膚腐食性／刺激性 | 分類できない |
| | 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | 分類できない |
| | 呼吸器感作性 | 分類できない |
| | 皮膚感作性 | 分類できない |
| | 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| | 発がん性 | 分類できない |
| | 生殖毒性 | 分類できない |
| | 生殖毒性・授乳影響 | 分類できない |
| | 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 分類できない |
| | 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 分類できない |
| 環境に対する有害性 | 誤えん有害性 | 区分 1 |
| | 水生環境有害性 短期（急性） | 分類できない |
| | 水生環境有害性 長期（慢性） | 分類できない |
| | オゾン層への有害性 | 分類できない |

GHS ラベル要素

絵表示（ピクトグラム）



注意喚起語

危険

危険有害性情報

可燃性液体

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

安全対策

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
眼に入れないこと。飲み込まないこと。

| | |
|------|--|
| | <p>熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。</p> <p>取り扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。</p> |
| 応急措置 | <p>飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。</p> <p>飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。</p> <p>眼に入った場合：多量の流水で洗眼し、直ちに医師に連絡すること。</p> <p>皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。</p> <p>無理に吐かせないこと。</p> |
| 保管 | <p>直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。</p> <p>一度栓を開けた容器は必ず密栓しておくこと。</p> <p>換気の良い場所で保管すること。</p> <p>施錠して保管すること。</p> |
| 廃棄 | <p>内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。</p> <p>不明な場合は購入先にご相談の上処理すること。</p> |

3. 組成及び成分情報

| | |
|-----------------|--|
| 単一製品・混合物の区別 | 単一品 |
| 化学品および一般名 | 合成油（ノルマルパラフィン系） |
| 主な用途 | 床用合成樹脂塗料塗装木床の手入れ油剤 |
| 成分及び含有量 | ノルマルパラフィン 100 質量% |
| 適用法令（項目 15）関連成分 | <p>環境ホルモン疑義物質、P R T R法（化学物質管理促進法）規制該当物質、シックハウス・シックスクール関連室内汚染物質、学校環境衛生基準該当物質を原料として使用していない。</p> <p>改正建築基準法における建築内装材の規格の該当法律に言う建築材料には該当しない。</p> |
| 安衛法通知対象物 | 非該当 |
| 危険有害成分 | 危険物第四類第三石油類（非水溶性）、危険等級Ⅲ |

4. 応急措置

| | |
|-----------|--|
| 吸入した場合 | <p>空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。</p> <p>呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。</p> |
| 皮膚に付着した場合 | 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。医師の診断、手当てを受けること。 |

| | |
|-------------|--|
| 眼に入った場合 | 清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | 無理に吐かせないこと。 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。 |
| 最も重要な徴候症状 | 誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、吐くことがある。 嘔吐中に、飲み込んだ本品が肺に吸入されると、化学性肺炎を起こし、致命的となることがある。 |
| 応急措置をする者の保護 | 現在のところ有用な情報なし。 |

5. 火災時の措置

| | |
|-----------------|--|
| 適切な消火剤 | 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。 |
| 使ってはならない消火剤 | 棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。 燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。 高温の金属表面等に接触した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。 |
| 特有の消火方法 | 火元への燃焼源を遮断する。周囲の設備等に散水して冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具 | 消火作業の際は、風上から行き必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|---------------|---|
| 人体に対する注意事項 | |
| 人体に対する保護具 | 作業には必ず保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用すること。 |
| 人体に対する緊急時措置 | 付近の着火源となるものは速やかに取り除く。 |
| 環境に対する注意事項 | 下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。海上の場合、展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため蒸気の及ばない範囲で行う。止むを得ず危険範囲に近づく場合は蒸気の拡散状況を把握し（風向、風速、ガス濃度等）安全を確認する。 |
| 封じ込め及び浄化方法・機材 | 蒸発しやすいので、速やかに全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。 |

危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立入りを禁止する。

少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。

大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。

二次災害の防止策

漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準を満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。

熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。

皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。

静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。危険物が残存している機械設備などを修理、又は加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。

容器から取り出す時はポンプなどを使用すること、細管を用いて口で吸い上げてはならない。飲まない。

ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。容器は必ず密閉する。

局所排気・全体換気

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気・全体換気を行う。

室内で取り扱いを行う場合は、十分な換気を行う。

換気装置をつける場合は、防爆タイプを用いる。

安全取扱注意事項

製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため換気及び火気などへの注意が必要である。

容器を開ける時は、手を切る恐れがあるので、保護手袋を着用する。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照。

ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。

ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。

衛生対策 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

混触危険物質 「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管条件 換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。

危険物の表示をして保管する。

熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。

保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。

保管場所に施錠して保管することが望ましい。

安全な容器包装材料 容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 未設定

許容濃度 現在のところ有用な情報無し。

設備対策 ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。

取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

呼吸用保護具 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する。

手の保護具 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。

目、顔面の保護具 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

長期間にわたり取扱う場合または濡れる場合には耐油性の長袖作業着等を着用する。

衛生対策 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 液体

色 無色透明

臭い 僅かな臭気

| | |
|------------------------|-------------------------------------|
| 粘度 | データなし。 |
| 比重 | 0.7550~0.7650 (15°C) |
| 凝固点 | -5°C |
| 沸点 | 220.0~275.0°C |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | 0.7~5.5 (質量%) |
| 引火点 | ≥90°Cペンスキーマルテンス密閉式 |
| 自然発火点 | 210°C |
| 分解温度 | データなし。 |
| pH | データなし。 |
| 動粘性率 | ≤20.5 (mm ² /sec) (40°C) |
| 溶解度 | 水：不溶 |
| n-オクタノール／水分配係数 (log 値) | データなし。 |
| 蒸気圧 | データなし。 |
| 密度及び／又は相対密度 | 6.5 (空気=1) |
| 相対ガス密度 | データなし。 |
| 粒子特性 | データなし。 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|------------------------------------|
| 安定性 | 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | 強酸化剤との接触を避ける。 |
| 避けるべき条件 | 混触危険物質との接触。 |
| 混触危険物質 | ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。 |
| 危険有害な分解生成物 | 燃焼の際は煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。 |

11. 有害性情報

| | |
|-------------------|-----------------|
| 急性毒性 (経口) | 区分に該当しない。 |
| 急性毒性 (経皮) | 区分に該当しない。 |
| 急性毒性 (吸入：気体) | 区分に該当しない。 |
| 急性毒性 (吸入：蒸気) | 区分に該当しない。 |
| 急性毒性 (吸入：粉じん、ミスト) | 区分に該当しない。 |
| 皮膚腐食性／刺激性 | データ不足のため分類できない。 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | データ不足のため分類できない。 |
| 呼吸器感作性 | データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚感作性 | データ不足のため分類できない。 |
| 生殖細胞変異原性 | データ不足のため分類できない。 |

| | |
|-----------------|--|
| 発がん性 | データ不足のため分類できない。 |
| 生殖毒性 | データ不足のため分類できない。 |
| 生殖毒性・授乳影響 | データ不足のため分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | データ不足のため分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | データ不足のため分類できない。 |
| 誤えん有害性 | 区分 1 40℃の動粘性率が 20.5mm ² /s 以下の炭化水素でありヒトの摂取により肺への吸引を起こし、その結果油性肺炎または化学性肺炎をもたらすとの報告がある。 |

1 2. 環境影響情報

| | |
|----------------|---|
| 水生環境有害性 短期（急性） | 水生生物に対する有害性に十分な知見はない。 |
| 水生環境有害性 長期（慢性） | 水生生物に対する有害性に十分な知見はない。 |
| 残留性 | データなし。 |
| 分解性 | ペンタデカンの分解性 BOD : 54.8 % |
| 生体蓄積性 | 生態蓄積の可能性を有するが、代謝あるいは物理的特性により、生体内濃度を低下することもある。 |
| 土壤中の移動性 | 基油についての有用な情報なし。 |
| オゾン層への有害性 | データ不足のため分類できない。 |

1 3. 廃棄上の注意

環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。

方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

投棄禁止。

埋め立て処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。

燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処理をすること。空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 非該当

国内規制がある場合の規制情報

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上輸送 消防法 危険物 第4類 第3石油類 非水溶性 危険等級Ⅲ

海上輸送 船舶安全法 非危険物（個別運送及びバラ積み運送に於いて）

航空輸送 航空法 非危険物

輸送の特定の安全対策及び条件：

運送容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。

容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。

指定数量以上を車両で運搬する場合は、総務省令で定めるところにより、当該車両に標識を掲げ、消火設備を備える。運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。

第1類及び第6類の危険物及び高压ガスとを混載しない。

15. 適用法令

消防法：危険物・第4類引火性液体・第3石油類非水溶性液体，危険等級Ⅲ危険物

水質汚濁防止法：油分排出規制

下水道法：鉱油類排出規制

海洋汚染防止法：有害液体物質Y類物質

廃掃法：産業廃棄物規則

16. その他の情報

参考文献

化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂9版（国際連合）

GHS 対応 化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS 提供制度（厚生労働省）

備考

本記載内容は本製品に関するものであり、危険・有害性化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う業者に提供されるものです。

また、情報の正確性、信頼性、あるいは完全性について保証するものではありません。

記載内容は現時点で入手出来る情報に基づいて作成してありますが、新しい知見により改訂されることがあります。取扱う業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱い等の実態に適切な処置を取ることが必要であることを理解した上で、使用されるようお願いいたします。